

パブリックトイレに求められる 視覚障がい者への配慮

障がいがある人もない人も、誰もがいきいきと参加できる共生社会の実現に向けて、視覚障がい者に配慮したパブリックトイレづくりも重要なテーマの一つとなっています。国も法整備等を進めていますが、実際にアンケートをとってみると、まだまだ課題が多いようです。

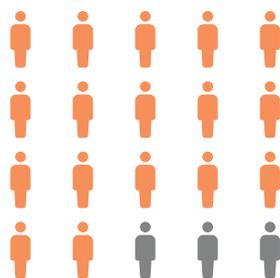
視覚障がい者の多くが「一般トイレ」を利用

Q. 「多機能トイレ」と「一般トイレ」のどちらを利用しますか？

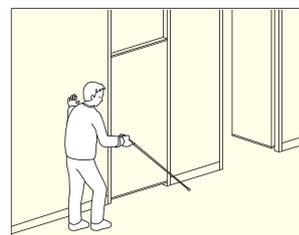
視覚障がい者のパブリックトイレ利用状況についての調査を見ると多くの人たちが、多機能トイレではなく「**一般トイレを使う**」と回答。多機能トイレを利用しない理由*としては、「**空間が広すぎて、便器やスイッチの位置がわかりづらい**」、「**鍵の開け閉めがわかりづらいため閉じ込められるので不安**」などが挙げられています。

※調査データ:「視覚障がい者のパブリックトイレ利用実態調査」(LIXIL / 2018年)

一般トイレを使う **20人中17人**



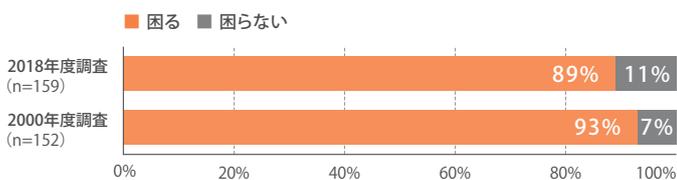
出典:「一般社団法人日本レストルーム工業会調査」(2015)



「トイレの場所探し」「男女別入口の認識」が第一関門

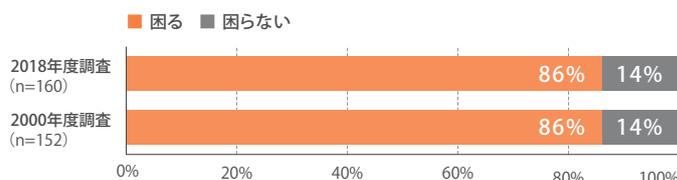
一般トイレの場所探しについては、**89%の人が「困る」**と回答。また、男女別入口の認識については**86%の人が「困る」**と回答しました。2000年度調査から大きな変化は見られず、「トイレの場所探し」も「男女別入口の認識」もまだまだ高いバリアになっていることがうかがえます。

Q. 一般トイレの場所探しで困ることはありますか？



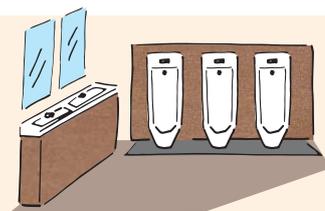
調査データ:「視覚障がい者のパブリックトイレ利用実態調査」(LIXIL / 2018年)
「視覚障害者の公共トイレ使用実態調査」(INAX / 2000年)

Q. トイレの男女別入口を認識するのに困ることはありますか？



共生社会を目指して、国も法整備等を推進

- 「障害者差別解消法」(2016年4月)
- 「ユニバーサルデザイン2020行動計画」(2017年2月)
- 「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」(2017年3月)
- 「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計基準」改正(2017年3月)



POINT!

視覚障がい者も利用しやすい、一般トイレにするためには
まず、**入口のバリアを取り除く配慮・工夫**が必要です

視覚障がい者のトイレ探しは “人”と“音”が頼り

施設案内図やピクトグラムから情報を得られない視覚障がい者にとって、大きな施設等で「トイレの場所探し」と「男女別入口の認識」は非常に困難といえます。それでは現状、どのようにトイレの位置を認知しているのか？。パブリックトイレの探し方について調査しました。

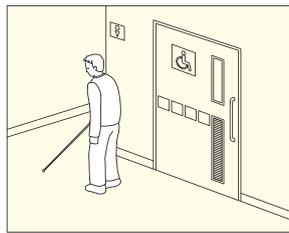
調査データ:「視覚障がい者のパブリックトイレ利用実態調査」(LIXIL / 2018)

視覚障がい者のトイレの探し方は？

全盲の方と弱視の方に

「公共施設におけるトイレの探し方」についてインタビュー調査を実施。

最も頼りにしているのが「人に聞くこと」であり、「音声ガイダンス」、「流水音」、「ハンドドライヤー音」、「足音」などの音も頼りにしていることがわかりました。



□ トイレ場所探しの意見 □ 男女別入口の認識の意見

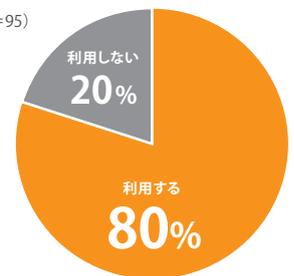
	全盲の方	弱視の方
トイレ場所探しの意見	何か音が流れていると、トイレの場所がわかりやすい。	自分では探せないので、たいてい人に聞く。
男女別入口の認識の意見	慣れないところでは、「人の気配」を感じ、その人に聞く。	音声ガイダンスは流れていれば、頼る。
トイレ場所探しの意見	男女別に、「短い音楽」が流れると入口もわかる。	出てきた人の「シルエット、服の色・柄、髪型」で男女を識別。
男女別入口の認識の意見	女性の「ハイヒールで歩く足音」や「化粧品の香り」で識別。	何回も男女を間違えて入った。男女別ピクトグラムを確認するが、小さくて見えない。
トイレ場所探しの意見	以前は、「芳香剤の香り」を感じたが、今はきれいすぎてわからないので、人に聞いている。	慣れないところでは、まず人に聞くのが基本。
男女別入口の認識の意見	女性入口は、「ハンドドライヤー音」や手を洗う「流水音」が多く聞こえる。	男女別の入り口まで、人に案内してもらう。

(全盲の方6名・弱視の方6名計12名にインタビュー)

Q. 音声ガイダンスがある場合、利用しますか？

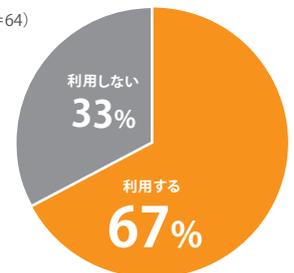
全盲の方

(n=95)

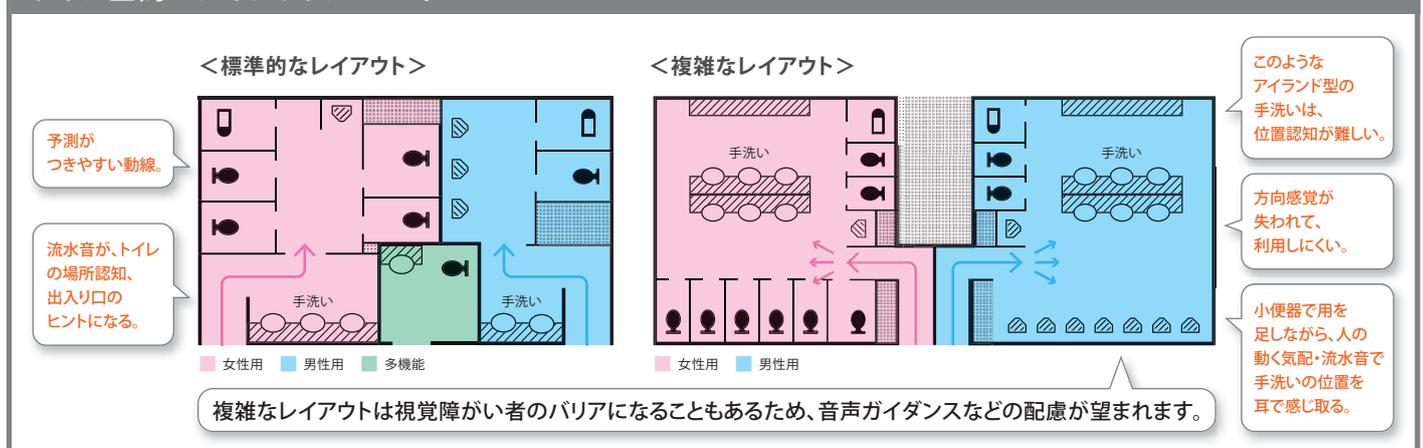


弱視の方

(n=64)



トイレ空間のレイアウトについて



POINT!

視覚障がい者は“音”を頼りにしていることを考慮して
音によるサポートや空間レイアウトの工夫が望まれます